

2018年度 アメリカ研修報告

1. 概要

期間： 2018年7月31日(火)～8月14日(火) 15日間
参加生徒： 幕張高12名(男子9名、女子3名) 渋谷高7名(男子6名、女子1名)
引率： [REDACTED] (渋谷高・英語科)、[REDACTED]さん (JTB 添乗員)
事前指導： ネイティブ教員による特別授業、前年度参加者を呼んで質問会
現地スタッフ： Lisa Staigerさん (NISE)、Peter、Shelby (語学学校先生)

2. 行程・所見等

7月31日(火)
成田空港 13:55 発、デルタ航空にてポートランドへ。現地時間同日の 9:00 に到着。NISE のコーディネーター Lisa と語学学校の先生 2 人が出迎えに。空港から 2 台のワゴンに分かれて移動。Pizza lunch 後に、現地ガイドツアーによる Portland 観光。ただ、時差ボケと疲れがあり、長時間のウォーキングで生徒たちは辛そうだった。夕方に、Host family が pick up に来て、随時解散。
8月1日(水)
St. Mary's Academy にて語学研修。ホストファミリーに車で送ってもらった生徒や、近くに住む者同士と一緒に登校した。道に迷ってしまい、集合時刻(9:00)に遅れた生徒がいた。授業構成は、スタートは19人で合同クラス。その後、先生の判断で2クラスに分かれた。若干ではあるが英語力で上下のレベル分けがなされたようだ。幸い、今年度は生徒のレベルがあまり変わらないので問題はなかった。午後は路面電車に乗って、語学学校の先生・現地ボランティア高校生とともに OMSI (Science 博物館) を見学。科学実験が好きな生徒はおおいに楽しんだようだ。IMAX Theater と潜水艦見学ツアーの2グループに分かれて見学。
8月2日(木)
9:00 から語学学校での授業開始。午後は遊園地 (Oaks Park Amusement Park) に移動。路面電車とバスを乗り継いだので時間がかかった。規模が大きい遊園地ながら、生徒たちは楽しんでた。
8月3日(金)
午前中は語学学校。午後から Oregon Zoo に移動。広大な敷地で、日本とは異なる動物の展示を楽しんでいた。
8月4日(土)
週末は Host family と過ごす。MLS (サッカー) の地元チーム Portland Timbers のホームゲームを、NISE がチケットを取ってくれていた。Host family と週末の予定を確認した上で、観戦希望者数を確認したところ 19 人中 17 人が参加。18時にスタジアムに集合して、おおいに盛り上がり観戦していた。
8月5日(日)
終日、Host family と過ごす。

8月6日(月)

キャンプ初日。7:00に OMSI 集合。バスで3時間ほど南西へ進み、Newportのキャンプ場へ。昼食後、Intro Hikeとして、地震で津波が発生した時の避難場所まで移動したのは驚いた。そこでIce breakとしてグループメンバーの名前を言うゲームを行う。日本人のシャイさが出てしまう。休憩後、哺乳類と鳥類の講義をインストラクターから受ける。この講義をうまく活かせる activityがあるとさらに良いと感じた。

夕食後、近くのjettyを散策し、その後campfireの予定だったが、昨年からの山火事が頻発しており、条例で外での火の使用が禁止され、生徒は悲しんでいた。ただ、インストラクター達のテンションの高いパフォーマンスに圧倒されたようだ。

8月7日(火)

Cape Perpetuaに移動し、tide poolとhikingの2グループに分かれた。公園のRangerと一緒にいるのだが、質問をしないと説明をしてもらえなかった。おそらくジュニア向けのRangerで、生徒それぞれにQuestion bookを渡してあるので、それを解いていかせたいのだろう。

午後にはbeachに移動し、水温が10度もない海水に驚きながらも生徒たちは楽しんでた。夕食後は、天気が悪かったこともあり、予定を変更して地元のコミュニティ主催のfestivalに行き、無料のhotdog、かき氷、ゲームなどを楽しんだ。

8月8日(水)

朝食後、Aquariumに移動し、キャンプ初日の哺乳類・鳥類の講義を理解した生徒は、より楽しめたのではないかと思う。次にScience centerの見学をしたが、ここを省いてその後のNewport shoppingに時間を足してあげたほうが、生徒は満足したと思う。

夕食後、本来はcampfireでsmores(デザート)を食べるのだが、火の使用ができないので、dining roomで行う。カウンセラーの男の子が日本語の歌を披露してくれて盛り上がる。渋谷・幕張が協力して、farewell partyに向けて練習をしたソーラン節を、リハーサルを兼ねて披露し、大好評だった。

8月9日(木)

朝食、宿泊cabinの清掃のあと、survival skillsとして、コンパスの使い方、古代の弓矢体験をした。これはおおいに盛り上がったので、campの前半でできるとより良いかと思う。

昼前にcampを出発して、夕方にOMSIに到着。修了証を受け取り、host familyが迎えに来た生徒から帰宅。

8月10日(金)

午前中は語学学校。campでの出来事を話したり、familyにThank you letterを作成した。昼食後ボーリング場に移動し、2ゲームほどプレイする。その後、farewell party会場の公園へと移動。かなり移動距離があった。

partyはhost familyが様々な料理を持ち寄ってくれて、たくさん写真を撮ったり楽しんだ。音楽を流す機材で少し苦労はあったが、ソーラン節は拍手喝采を受けるほどの盛り上がりだった。

8月11(土) - 12日(日)

終日、Host familyと過ごす。Seattleに連れていってもらった生徒もいたようだ。12日(日)19時に、空港近くのホテルに集合。涙をこらえながら、host familyと別れる。

8月13(月)

12:00発の予定から2時間遅れのフライトで、デルタ航空便にて成田へ。日本時間翌14日成田へ到着、解散。

3. 研修を終えて感じたこと・報告など

1 週目 (語学学校、アクティビティ、ホームステイ)

- 英語授業は、2人の先生によって行われた。Shelby は昨年もレッスンをしてくれたようで、スムーズに進めることができた。今年に参加生徒は、英語レベルにそれほど差がないようで、2つのグループともに同じ内容で進められていた。
- 授業には同年代の高校生がボランティアとして参加してくれた。ホストの兄弟姉妹も含めて5人。中でも、幕張生徒のホストシスターでもある Emily が、素晴らしいコミュニケーション力で、皆をリードしてくれた。彼女は、来年もこのボランティアをやりたいと言っていたので、ぜひお願いをしたい。
- 午後のアクティビティは楽しいのだが、けっきょく日本人生徒で固まってしまい、日本語のみになってしまうので、グループを作ってボランティア生徒を付ける方が良さそう。ただ、翌日のレッスンでアクティビティについての質問を先生がしてくれるので、生徒は復習にはなっていたようだ。
- フェアウェル・パーティーの内容を、事前に渋谷と幕張で打ち合わせをしておく必要がある。camp の形式が変わらないならば、自由時間は camp で取れるので、そこでリハーサルなどは行える。また、今回は引率教員・語学学校の先生の iPhone でどうにか音源が確保できたが、その確認も事前にできると良い。
- ホームステイが2週に渡って土日が入る日程だったので、前後半でステイ先が変わることが想定されたが、実際には変更は2名で済んだのはラッキーだった。変更になった生徒も、不満もなく違うファミリーを経験できたことを前向きにとらえられていた。
- 語学学校への通学は、全員に路面電車・バスの乗り放題パスが渡される。午後のアクティビティでもパスが大いに活躍した。host family によっては、仕事の行き返りに車で送り迎えをしてくれるケースもあったが、街を知るには自分で公共交通を使用したほうが良い。
- アクティビティの終了が遅くなった時に、ステイ先への帰りが不安だったが、生徒はしっかりと family と確認をしており、また host family 同志がきちんとしており、3人の生徒を送り迎えしてくれる family もあったのが大変助かった。

2 週目 (キャンプ)

- 今年だけなのかもしれないが、Portland と Newport の気温差が20度近かった。しおりの持ち物リストで、注意喚起をしたい。宿泊 cabin が思ったよりも広く、スーツケースを持ってきても問題がないので、防寒着のためにも多めに上着を持ってきたほうが良い。
- キャンプの対象年齢が低いと聞いていたが、今回の日程では自分たちのグループと、同じ年代の別グループしかキャンプサイトにいなかった。初めは、インストラクターや他の参加者のテンションの高さに驚いた様子もあったが、次第に慣れて一緒に掛け声で盛り上がることも多かった。

- 食事はとても美味しかったので、お代わりをする生徒も非常に多かった。前年度に聞いていたお代わりルールなどもなく、生徒は非常に満足していたようだ。アレルギー対応もきちんとしており、マネジャーがアレルギーのリストを把握していた。特に、ナッツが入っているかが食物の容器に貼られていたりして役立った。
- 昨年からの引き継ぎなのか、スマホの持ち込み禁止と言っている生徒がいたが、何の問題もなく使用できた。
- キャンプ場のグラウンドには棘のある植物が生えており、何人かの生徒は棘が靴を貫通してしまい、とても痛がっていた。薄いソールの靴は不可。キャンプ場が砂地の上に作られているので、それを見越した服装がよい。靴はとにかく砂だらけに。
- シャワー用のサンダルは必須。髪を洗ったあと濡れたままにしておくと冷えてしまうので、特に女子はドライヤーを重宝していたようだ。女子は添乗員さんに借りることができて助かっていた。
- バーベキューをしたり、川で泳いだりといった日本のキャンプのイメージとは全く異なることを理解したうえで、この研修に参加する必要がある。

4. まとめ

生徒たちの表情からも、大変満足度が高いことがわかる。特に、ホームステイの満足度が高いようだ。1週目にホームステイで英語レベルが上がったことを実感できたときに、キャンプに移動してしまい、日本人だけの環境になることがもったいないと思われる。ただ、このキャンプ中に、かなり渋谷と幕張の生徒の仲が近くなったことも事実なので、生徒自身が今、取り組んでいるタスクが何にフォーカスを当てているかを、生徒にも理解させることが重要だと感じた。

今後に向けては、研修の日程を早めに確定し、camp の日程・内容を吟味、調整していく必要がある。science に特化した camp なのか、集団行動させるための camp なのかの方向性の一致が大切である。また、現地団体 NISE とのすり合わせが最も重要になるので、連絡系統を確保していくことが課題である。

